

日工會報

第31号
令和6年3月5日
発行 日立工業高校同窓会
発行者 同窓会事務局
日立市城南町2-12-1
☎ 0294 (22) 1049
FAX 0294 (21) 4591
印刷所 SATOプリント
☎ 0294 (33) 0883

会長挨拶

同窓会会長 梶山 隆範



翌工會会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より多大なるご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

はじめに、この度の能登半島地震により被害に遭われた方々に、心よりお見舞い申し上げます。被災地の皆様が一日でも早く日常を取り戻すことができまますようお願いしております。

さて、昨年は新型コロナウイルス感染症が5類に移行となるなど、大きな変化がありました。日立市としましては、さくらま

つりが四年ぶりに開催されるなど、多くの方々で賑わいました。また、日立駅前に大型商業施設「ヒタチエ」もリニューアルオープンし、順調にアフターコロナを歩んでいると前向きに感じているところでございます。

そして、本校においても大きな変化があり、学科改編により一学級減となりました。少子化の影響によりやむを得ない状況とはいえ、生徒数の減少はとも寂しく思います。伝統ある日立工業高校のため、同窓会としてもしっかりと全力で支援していく所存でございます。教職員、在校生、保護者の皆様におかれましても、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

今号の同窓会報に目を向けますと、陸上部・山岳部の関東大会出場などの部活動の活躍、技能検定など多数の資格取得に関する工業科の取り組み、三年生の進路決定一〇〇%など、心躍

るような内容となっております。

本校OBとしても大変誇りに思います。化学分析の2級技能検定の合格生徒におかれましては、県内の高校生初の合格という快挙を称え、同窓会から表彰状と記念品を贈呈させていただきました。三年生の卒業生の皆様におかれましては、四月から新しい環境での生活が始まるかと思えます。これまで支えていただいた保護者の方々や先生方、友人への感謝の気持ちを忘れず、本校OBとして存分にその能力を発揮され、ご活躍されることを心より期待しております。

結びに、翌工會会員の皆様のおまつり申し上げます。ご健康とご活躍をお祈り申し上げます、同窓会会長挨拶といたします。



学校長挨拶

学校長 西野 守郎



同窓会（翌工會）の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素より本校教育の充実・発展のために深いご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。とりわけ、卒業生の皆様は、各界で活躍されていることは、生徒の将来の目指すべき理想として大きな励みになっているところです。

令和五年五月より、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが二類から五類へと変わり、学校生活は通常の形に戻りつつあります。今年度予定されていた学校行事は、これまで滞りなく実施されました。今後も、コロナ禍で学んだ、生徒の安全を確保する体制は維持しつつ、充実した教育活動が送れるよう取り組んでまいります。

さて、今年度も各部活動の活躍はめざましく、陸上部と山岳

部は関東大会に出場することが出来ました。その他、多くの運動部と文化部が県大会や地区大会において入賞しています。定時制の定時制通信制体育大会では、卓球で全国大会に出場するなど、全日制・定時制ともに多くの部活動が優秀な成績を残しています。また、技能検定試験化学分析の分野では、高校生では合格が非常に難しい二級に合格することが出来ました。三年生の進路状況では、就職希望者は順調に企業からの内定を得ており、公務員試験でも合格者を出すことが出来ました。また、進学希望者も希望する大学、専門学校への進学を決めており、就職、進学とも順調に生徒が希望する進路へと決まりつつあります。今後も「誠実 剛健 自主 創造」の校訓のもと、地域・日本・世界に貢献できる人材の育成を目指し取り組んでまいります。

令和四年度より新学習指導要領にもとづいた教育課程が始まり、令和六年度には全日制全学年が新課程で学びます。「何を学ぶか」だけでなく「何が出来るようになるか」が求められているとともに、新課程の根底には、地域に開かれた教育課程といった考え方が流れています。

本校の、これまで進めてきた地域との連携をこれまで以上に進め、個別最適な学習活動や進路希望に対応した教育活動、進路相談などをおして、生徒が達成感や自己肯定感、学ぶ喜びを感じる事ができるよう努めてまいります。

これからも生徒の可能性を最大限引き出し、地域に信頼される学校づくりを進めてまいります。終わりになりますが、昱工会の皆様には、今後も本校の教育活動に一層のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げますとともに、皆様の「健康・ご活躍と昱工会の益々の発展を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。



事務局長挨拶

全日制 教頭 古川 博文



元日夕方の能登半島地震には本当に驚きました。津波の映像では東日本大震災の記憶がまざまざと甦った方も多いかと思えます。被害に遭われた方にお見舞い申し上げますと共に、学校関係者の苦境を思うと当時の自分に重なり、同業者として身につきまされます。また、支援物資を届けようとした海保機と民間機との衝突事故があり、新年の気分が吹き飛ばような出来事に世の無常さと人という存在の小ささにつくづく思い知らされた今年の正月でした。

さて、新型コロナウイルスの5類移行に伴い、各種行事を含めた学校活動は、感染防止対策を踏まえつつコロナ禍前の状態に近い形で実施してきました。卒業式等の式典も保護者の人数一人枠という制限を設けること無く、また在校生も一堂に会して行える見込みです。

役員だより

同窓会相談役 小野崎久輝
(昭和25年電気科卒)

私も本校が開校して、その第三回生として校門を潜って、七十九年になり、感慨無量の心境です。

お陰様で年齢も九十二歳になりました。顧みると、この歳になる迄、いろいろと経験、体験をして参りましたが、何とかやって来られたのは、多くの恩師や先輩や、友人のお陰で居ります。

「人生に三楽あり、これに充分に楽しめ」と恩師から言われた事が、いつも心の片隅にありました。

一つ目は、曲がった事をせず、善を楽しむ事
二つ目は、毎日の健康を楽しむ事

三つ目は、長生きして人生を充分楽しむ事、と教わりました。私も九十年の人生を振り返りますと、全く同感そのものです。如何なる富を得ても、如何なる名誉職にあつても、病身だったり、短命であつては何の役にも立ち得ません。昔から健康は宝と言われて居りますが、健康管

理は易しいようでも、なかなか容易ではありません。そこを何とか自分に厳しく、長続きさせる事が大切です。

人生は苦しみの中にあつても、楽しみを求めてこそ、真の幸せではないかと思えますし、その為には何が何でも健康でなければなりません。

九十路の旅立ち、これからは、老いて初めて見える、或いは感ずる風景を楽しみたいと思つています



令和五年度総会報告

令和五年度同窓会役員構成

日時 令和五年六月二十四日(土)

十時

場所 日立工業高等学校会議室

出席者 三十一名

1) 令和四年度同窓会事業・会務報告

2) 創立八十周年記念事業報告

3) 創立八十周年記念事業決算報告

4) 創立八十周年記念事業会計監査報告

5) 令和四年度同窓会決算報告

6) 令和四年度同窓会会計監査報告

7) 令和四年度記念基金管理運営委員会事業・会務報告

8) 令和四年度記念基金決算報告

9) 令和四年度記念基金会計監査報告

10) 令和四年度記念基金特別会計バス管理費決算報告

11) 令和四年度記念基金特別会計バス管理費会計監査報告

12) 令和四年度記念基金特別会計バス管理費【定期】決算報告

13) 令和四年度記念基金特別会計バス管理費【定期】決算報告

計バス管理費【定期】会計監査報告

14) 役員改選について

1 同窓会副会長 石川洋一

↓ 幹事(北) 榎熊勝敏

2 幹事(北) 榎熊勝敏

↓ 長久保亮

3 幹事(南) 宇野清一

↓ 武藤康志

その他の役員は留任とする

15) 令和五年度同窓会事業・会務計画

16) 令和五年度同窓会予算(案)

17) 令和五年度記念基金管理運営委員会事業・会務計画(案)

18) 令和五年度記念基金予算(案)

19) 令和五年度記念基金特別会計バス管理費予算(案)

20) 令和五年度記念基金特別会計バス管理費【定期】予算(案)

21) その他

会長

梶山隆範

副会長

根本正幸

三瓶恭央

小藪雅貴

会計

益子進

會計(同窓会)

村上富敏

猪狩大樹

會計監査

鈴木康

猪狩大輝

青山達史

相談役

田口滋美

幹事

猪狩大輝

小野崎久輝

鈴木巳代治

内田雄啓

今橋吉嗣

黒田賢治

永山堯康

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

黒田賢治

